

◇ 国 語

国 2－1～国 2－20 まで 20 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(二) 仕事と趣味は何が違うかと言えば、依頼と締め切りがあるかどうかでしょう。例えば、趣味でブログに日記を書いている人もいれば、アマチュアで将棋を指している人もいます。同じ野球でも、草野球を楽しむ大勢の人がいる一方で、プロとして野球を仕事にしている人もいます。

では、仕事として成立するものとしらないものを分けているのは何かと言えば、要素としては二つしかない。「依頼と締め切り」があるかどうか。この二つが本質的なことであって、これ以外の定義は重要ではありません。

趣味が楽しいのは、厳しい締め切りもなく、依頼もないからとも言えます。もちろん依頼とは、対価を伴ったオーダーのことです。

依頼があるかどうか、仕事として成立するかどうかの決定的なポイントだとすれば、相手のニーズがあるかどうか、仕事を考えるうえで ア 的に大切なことになりますよね。

具体的な例をあげてみましょう。

仮にあなたが「カジノと地方税」に関して、仕事でレポートを出せと言われたとします。そのレポートを、カジノをやるうとしている東京都に提出するのか、やろうとしない岡山県に提出するのかでまったく趣向が違ってくるでしょう。何かを調べて報告をするというのは、トクシユな分野での仕事のように見えるかもしれませんが、煎じつめればこれも「依頼と締め切り」で成り立っているものであり、この二要素は仕事全般においてあてはまることなのです。

タクシー運転手も同じことです。乗車依頼がお客さんからあって、到着するまでという締め切りがあります。

恋愛には締め切りも依頼が伴うということもないし、すぐに結論を出す必要もまったくありません。恋愛においては、アウトプットなど考えなくてもいいのですが、仕事の場合は、どういう形のアウトプットになる(する)かというイメージを先にしておかないと、インプットがすべて無駄になります。インプットを大量にする人が優れたアウトプットを出せるかというと、決し

てそうではないということは、あなたの周囲を見渡してみれば、納得いただけるのではないのでしょうか。

第一章でも述べたように、例えば一週間後にインタビューする人が、相手の書いた本を二〇冊読むことにしたとしましょう。

ここで、二〇冊を読むという行為の意図は、礼儀として考えたのか、せっかくの機会だからと思って読んだのか、読んだと皆の前で言いたかったから読んだのか。目的によってどういう読み方をすればいいかは変わってくるわけです。

仮に、二〇冊読んだ事実が取材相手に伝わること、が目的だったとした場合に、二〇冊を半年かけて読んで中身を全部忘れたという読み方と、三時間くらいで二〇冊に目を通して要点はかなり踏まえたつもりであるという読み方、この二つではどちらが目的にかなっているのでしょうか。つまり、前者と後者を比較したときに、相手はどちらに「本当に読み込んでいるな」と思うでしょう。

あるいは、二時間のインタビューのなかでそれなりの問題意識をもって話を聞くため、というのが本を読む目的だった場合はどうでしょうか。

このように考えると、かかった時間やエネルギーや努力の量と、目的が達成されたかどうかはまったく無関係であることがわかります。

a を前提にすることは、仕事の第一条件です。二〇冊を読むこと自体が目的なのではなくて、読むことによって何をしようとしたのが重要であるはずで

話をより理解しようとしたとか、相手に礼儀正しいと思われることが目的だしたら、それをクリアするために、半年間も時間をかけるのは無駄だということになります。

あくまで仕事においては、**b** の続きに **c** が出てくるのではなく、**d** が前提になっていて、そのために **e** があるのです。

何かについての報告をまとめるためには、四つの要素が大切になります。

情報 シュウシュウ、分析、解釈、評価です。

これらは自動的につながってくれるわけではないので、ただひたすらに情報を集め続けているだけでは、いつまでたっても分析にまで至ることはできません。

例えば日本の宝くじは、集めたお金の約五三%を国が取っていくという事実があるということをもって、「胴元である国が五三%も取ってしまうのは、これはもう詐欺さぎです。皆さんやめましょう。交通事故にあう確率のほうが一〇〇〇倍も高いのですよ」と主張するのは、情報であつたり、分析であつたり、解釈であつたり、評価だつたりします。

「宝くじでは国が五三%をもっていく」事実を、聞き手がどう思っているかはここでは関係ありません。要は、その

イがあつたときに、あなたがそれをどう処理してアウトプットにつながるかということに尽きるのです。ものを調べて報告をする際に、最終的に一番大切なのは説得力です。相手を説得するために、先ほどの四つの要素が重要になってきます。

アウトプットの正体は、説得力だと考えて構いません。説得力のないものは、アウトプットとしてウです。もっと言えば、相手の納得というハードルをクリアしたもののだけがお金になる、と言つていいでしょう。

(中略)

ここで「締め切り効果」について、少し詳しくお話しておきます。

以前「しあわせ家族計画」というテレビ番組があつたのをご記憶でしょうか。

大家族であると、それぞれに欲しいものがあつても、なかなか全員の要求に答えられませんか。そこで、一家の大黒柱である父親が、番組の出す宿題にチャレンジして、それをクリアできたら家族の夢を叶かなえましょうというシユシシの番組でした。

出場権を得た家族のところに、番組のレポーターが訪ねて行って、宿題を発表します。宿題の発表から、番組に出場してそれをクリアするまでの期間は一週間しかありません。宿題の内容はさまざまですが、例えばビリヤードで、一度もミスをおかさないで九つある玉を総すべてのポケットに入れるとか、テーブルの上にグラスを三〇個置いて、堺正章お得意のテーブルクロス引きを

する。あるいは、大正琴で「春の小川」を一度も間違えずに弾くとか、ギターやバイオリンに一度も触れたことがない人が、名曲を一カ所も間違えることなく弾ききる。剣玉で一〇回連続剣先に入れる、というような宿題が課されます。

こんな一見「ありえない」課題なのに、なぜ普通のお父さんがかなりいい線まで行ったり、成功できたりしてしまうのか。その鍵は「締め切り効果」にあります。

もちろん生まれつきの能力が優れているわけではないでしょう。日ごろ家族に エ していないと自覚している父親が、家族のために一肌脱ごうとしているわけですから、決して音楽や暗記能力に優れている人ばかりが応募しているわけではありません。

普通はギターを弾けるようになるまでに何年もかかるでしょう。剣玉にも級や段位があつて、一級を取るにも五年以上かかる人も少なくない。では、なぜヘイキン^{ヘイキン}値にも満たない（かもしれない）普通の父親が、達成に三年も五年もかかると思われていることを、一週間で成し遂げることができるのか。それはもう、「一週間」というところに秘密があるとしか言いようがないのです。

オ に言いますと、選択の余地がない（締め切りが完全に迫っていて、延ばすことができない）という状況下では、否応^{いやおう}なしにやらざるをえないでしょう。

逆に、締め切り日を延ばせると思っているほうが、精神的に苦痛だろうと思います。

したがって、「やりたい」または「やらなければならぬ」仕事では、人工的な断崖絶壁^{だんがい}を作ってもらっておいたほうが「完成しやすい」ということになります。

先ほどから言っているように、能力の差ではなくて、その人を選択^{（三）}の余地がない状況に置いてあげるといのが、実は一番合理的だったりますのです。

（日垣隆『知的ストレッチ入門』による）

問一 傍線部A・B・C・Dと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A トクシユ

- ① シユセキで卒業する
- ③ コウシユ交代する
- ⑤ シユクンショウに選ばれる

- ② 日本のコユウシユ
- ④ 印鑑用のシユニク

1

B シユウシユウ

- ① カンシユウが見守る
- ③ 仏教のシユウハ
- ⑤ ユウシユウな成績

- ② 酔ってシユウタイをさらす
- ④ 証拠をオウシユウする

2

C シユシ

- ① ユシ免職になる
- ③ シシヨ資格を取る
- ⑤ 兵役をシガンする

- ② 出発のシタクをする
- ④ シゲキが強い

3

D ヘイキン

- ① キョウキンを開く
- ③ 狩猟がカイキンになる
- ⑤ ツウキン手当をもらう

- ② キンセイの取れた肉体
- ④ 一攫センキンを夢見る

4

問二 空欄 ア・イ・ウ・エ・オ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ①到達度
- ②第一義
- ③前近代
- ④無意識
- ⑤非人道

5

イ

- ①達成
- ②お金
- ③相手
- ④命題
- ⑤協力

6

ウ

- ①正確
- ②失格
- ③確実
- ④納得
- ⑤必要

7

エ

- ①挑戦
- ②遠慮
- ③失敗
- ④分析
- ⑤貢献

8

オ

- ①適当
- ②普通
- ③端的
- ④強硬
- ⑤劇的

9

問三 傍線部（二）「仕事と趣味」の組み合わせとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

10

- ①草野球を楽しむこととアマチュアとして将棋を指すこと
- ②アウトプットの形をイメージしておくこととインプットを大量にすること
- ③カジノと地方税に関してレポートを出すこととレポートを出さないこと
- ④対価を伴った依頼があることと厳しい締め切りがあること
- ⑤相手のニーズがあることと何年もかけてギターを練習すること

問四 傍線部（二）「まったく趣向が違ってくる」というが、何がどう違ってくるのか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

11

- ①岡山県に提出する場合は当事者としてのレポートは必要ではないが、東京都に提出するレポートには当事者としてのニーズが求められるという点が異なる。
- ②岡山県に提出するレポートは地方税の問題を考える必要はないが、東京都に提出するレポートにはカジノの問題を考える必要があるという点が異なる。
- ③岡山県に提出する場合は当事者としての仕事として考える必要があるが、東京都に提出する場合には当事者としての仕事である必要はないという点が異なる。
- ④岡山県に提出する場合は依頼と締め切りを考慮する必要はないが、東京都に提出するレポートには厳しい締め切りがあるという点が異なる。
- ⑤岡山県に提出するレポートは当事者として具体例を提示する必要はないが、東京都に提出するレポートには相手のニーズに応じた具体例が必要であるという点が異なる。

問五 空欄

a · b · c · d · e

には、「インプット」、「アウトプット」のいずれ

かが入る。その組み合わせとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

12

	a	b	c	d	e
①	アウトプット	インプット	アウトプット	インプット	アウトプット
②	インプット	インプット	アウトプット	インプット	アウトプット
③	アウトプット	インプット	アウトプット	アウトプット	インプット
④	アウトプット	アウトプット	インプット	アウトプット	インプット
⑤	インプット	アウトプット	インプット	アウトプット	インプット

問六 傍線部（三）「選択の余地がない状況」に当てはまるものはどれか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

13

- ①能力の差に頼らない、一番合理的な選択ができる状態
- ②普通ならありえない課題に何年もかけて挑戦できる状態
- ③否応なしにやらざるをえない、断崖絶壁に置かれた状態
- ④精神的に余裕を持って締め切りを延ばせる状態
- ⑤能力が優れていないために精神的に苦痛を味わうような状態

問七 本文の内容と合致しないものを、次の①～⑦の中から二つ選べ。

14

15

- ①恋愛には締め切りも依頼もなく、すぐに結論を出す必要もないが、仕事の場合はニーズに応じた結果を出す必要がある。
- ②「ありえない」課題に対して、普通のお父さんがかなりいい線まで行ったり成功できたりする鍵は、締め切り効果にあると言える。
- ③何かを調べて報告をする際に、最終的に一番大切なのは説得力であり、相手の納得というハードルをクリアしたものでなければお金になるのである。
- ④かかった時間やエネルギーや努力の量と、目的が達成されたかどうかはまったく無関係であるから、問題意識をもって本を読むのは無駄である。
- ⑤仕事として成立するものとしらないものを分けているのは何かと言えば、依頼と締め切りがあるかどうかである。
- ⑥二〇冊を半年かけて読んで中身を全部忘れたという読み方であっても、本当に読み込んでいれば相手は納得するものである。
- ⑦ほんの三時間くらいで二〇冊に目を通したとしても、要点を踏まえた読み方であれば目的にかなっている場合もある。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

探偵小説では、だれが実行したかわからない犯罪が市民社会の法的秩序を乱します。探偵役の人物が活躍することで、最終的には下手人の身元が確保されます。この分野では、登場人物たちも読者も、謎の解明という着地点を求めて行動する（登場人物は捜査・スリし、読者はページを読み進める）のです。

ア 登場人物たちの多くにとって、謎の解明が共同体の法的秩序回復——具体的には犯人の処罰という「落とし前」——と連動しているのにたいして、読者にとって（そしてときとして、ある種の探偵役にとっても）、共同体の法的秩序は必ずしも欠かせないものではありません。なによりまず謎の解明への興味が満たされることを、読者は期待します。つまり「謎」というもの自体、提示されたとたんに、読者にとっての「非常事態」をもたらすものとして機能するわけです。

あるいは、昭和の連続TV時代劇《必殺シリーズ》では、……。

また、僕の大好きなハリウッド製アクション映画では、……。

などと、このようなパターンの「型」で作られた分野はいくらでも存在します。……というか！

物語コンテンツのもっともシンプルでベーシックな姿がこの、

（平衡状態↓）^(二)非常事態↓あらたな平衡状態

なのです（当初の平衡状態は作中で記述されないことも多いため、括弧に入れてみました）。

この点で、平衡状態と非常事態とは、ふだんの生活と旅行中の生活のように認識されていると言ってもいいでしょう。平衡状態から非常事態に突入することは、いわば一種の越境なのです。

イ、自分が旅行するのではなく、来客が数日、家に泊まっていて、最後に帰っていく、という形式でとらえてもいいでしょう。民泊でもやっていないかぎり、お客さんが家にタイザイしているあいだの時間は「非常時」です。

外部からやってきた存在が、共同体のなかに一定期間いて、去って行くまでのストーリーを考えると、それは『竹取物語』だ

ったり、宮澤賢治の『風の又三郎』だったり、多和田葉子の『犬婿入り』だったり、桜庭一樹の『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』だったりします。

いずれも、ストーリー内で非常時がおとずれたときには、それが最終的に解消するまでのストーリーの弾道^③を、人は頭のどこかで予測しようとしているようなのです。

この予測は、必ずしも意識的になされる必要はありません。「このあとどう決着をつけるのだろう」という予測は、意識的なエンザンというよりむしろほとんど「情動」のような反応であり、しないようにすることができないものと考えたほうが実態に即しています。

「このあとどう決着をつけるのだろう」という感情は、たとえ事態が「決着などつけようがない」ように見えるときにすら起こります。というか、^②「決着などつけようがない」という判断それ自体が、「このあとどう決着をつけるのだろう」という感情によって引つ張り出されてくる、というべきでしょう。

ウ 川端康成の小説はしばしば、読み終わってもストーリーが終わった感じがしない、と言われます。なんか「ほったらかし」なのです。

『雪国』なんて、一九三五年から連作短篇^{たんぱん}の形で少しずつ発表し、一度は一九三七年に単行本にまとめながら、さらにちびちびと書き足され、一九四八年にもう一度単行本が出るのですが、その最終ページまで読んでも、妻子ある翻訳家の島村と若い芸者の駒子との関係が、なにかストーリー的な平衡状態へと進展することのないまま、ぷつりと終わります。小説がこの先まだ続いててもおかしくない。こんな終わりがたがアリなのだったら、逆に言うともっと前のところで終わってもおかしくない（じっさい、いったん終わった小説を書き継いだのだし）。

そして、川端康成の小説をいくつか読むと、「この作家の小説はストーリー的な意味での決着（いかにも「終わり」らしい着地）のないまま終わる」ということはわかってきます。

エ 、まだ読んでいない川端康成の小説を手にしても、心のどこかが「このあとどう決着をつけるのだろう」という

感情を持っているのです。どうやら、事態進展の弾道をシミュレーションする作業は、自分が意図的にやろうとしていることではなくて、意識しないところで勝手に起こるプロセスであるらしい。

それどころか、川端康成のオチなし小説であれ、すっかりオチのある探偵小説であれ、すでに読んで内容がわかっている小説を改めて読み直したりするときでさえ、不思議なことに、「このあとどう決着をつけるのだろう」という感情を持つことができます。

そういう状況では、べつに一度読んで知っている内容を忘れきってしまうわけではありません（僕くらいの歳になると、ほんとうに忘れきっていることが多いのですが）。僕のなかの、内容を思い出している（より 甲 な）働きと、「このあとどう決着をつけるのだろう」と感じている（より 乙 な）働きとは、喰い違ったままてんでに働いています。僕はお気に入りのアクション映画を何度も見ますが、二回目以降もそんな感じで、ドキドキ（初見のときとは質が異なっているとはいえ）を失うことなく見ています。

すでに応援していたチームが負けた試合中継を最後まで見て、展開も結果も知っているサッカーやプロ野球の試合について、そのあとのスポーツニュースでのダイジェストをやったり見てしまう人は、ジョウダンで、

「いや、さっきの中継は見間違いで、ニュースで見たら勝ってるかもしれないから」

と言ったりするものですが、これは「このあとどう決着をつけるのだろう」と感じている部門が言わせているかのようです。

ということは、「このあとどう決着をつけるのだろう」という間において求められているのは、必ずしも「こうやって決着をつけた」という情報だけではないということ。人間は、事態が「決着をつける」までの展開それ自体を、たんに情報として知りたいだけでなく、どうやら体験したいという気持を持っているようです。

情報と体験は違う。ストーリーは、それだけでは情報ですが、ストーリーを表現・提示した物語は、それを読む・聴く人に「体験」をさせるといふことになります。もちろんその体験は、エキサイティングなこともあれば、退屈なこともあります。

〈中略〉

今度は、通常の意味での決着がつかない変身物語であるカフカの『変身』（一九一五）について書いておこうと思います。

セールスマンのグレーゴル・ザムザは、ある平日の朝、目が覚めたら、巨大な虫（Ungeziefer）を虫と訳していいかどうか、じつは異論も可能なのですが、とりあえずこうしておきます）になっていました。このように小説のストーリーは、グレーゴルの視点ではじまります。

以下、仕事に出られないトラブル、グレーゴルの引きこもり生活、一家の稼ぎ頭を失ってしまった家族の新しい生活（with 間借人たち）といった話題が物語られます。

（平衡状態↓）非常事態↓あらたな平衡状態

の図式どおり、小説はグレーゴルの非常事態突入から語られます。非常事態によって失われた、以前の平衡状態については、グレーゴル（もつとも主要な視点人物）や家族たちの視点で、あるいはいずれの視点からでもなく語り手が直接、回想的な情報を差し挟んでいきます。

読み始めてすぐに、「これはまともな決着がつく小説ではないだろう」と思うわけですが、その（甲）な）思いとは裏腹に、「このあとグレーゴルの変身にどう決着をつけるのだろう」という（乙）な）思いもちゃんと存在します。これは

『雪国』を読んでいるときと同じです。

最後にグレーゴルは自室で死んでしまい、彼の両親と妹は休みを取って、ちょっとお出かけします。厄介ものがいなくなってせいせいしたかのような——いや、そもそも最初からグレーゴルなんかいなかったかのような——さっぱりした気持の二人を明るく記述して、小説は終わります。

『変身』のラストはこう、なんというか……むかしの松竹映画みたいな明るさなのです。なにしろ最終行では両親が、いつのまにかすっかり美しいお嬢さんに成長した娘（グレーゴルの妹）を見ながら、そろそろ娘の結婚を考えたほうがいいかなあ、なんてことを考えている。

わ、そうだったのか！　と思いました。

多くの読者もそうかと思いますが、僕はこの小説が始まってすぐから、「突然一家の厄介ものになってしまったグレーゴルのストーリー」というパターン認識で、ここまで読んできました。そして、意識の表面では「これはまともな決着がつく小説ではないだろう」という予想もしていたのです。

オ 『変身』のラストは、堂々と、ぬけぬけと、これ見よがしに、ふてぶてしいまでに、「決着らしい決着」だったのです。

『変身』は、

「突然一家の厄介ものになってしまったグレーゴルのストーリー」

のように見せかけておいて、でもそのラスト二ページは、小説のストーリーがじつは

「突然稼ぎ頭が厄介ものになってしまった一家のストーリー」

だったのだ、という着地を決めてみせる。そういうエンディングなのです。このまるでじゃんけんの後出しのような着地の違和感^(四)は、小説が物語（ストーリーを文字にしたもの）のウラをかくものである、ということを見せてくれます。

（千野帽子『人はなぜ物語を求めるのか』による）

問一 傍線部 A・B・C・Dと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A スイリ

- ① プスイなことを言うな
- ③ 体力作りのためケンスイする
- ⑤ 手術のためマスイする

② 降水量のスイイを見る

④ 任務をスイコウする

16

B タイザイ

- ① チタイなく支払う
- ③ 落ち葉を集めてタイヒを作る
- ⑤ タイダな生活を送る

② フタイテンの決意を示す

④ 家族をタイドウして赴任する

17

C エンザン

- ① 酒を飲んでキエンをあげる
- ③ 拍手の中でエンダンを降りる
- ⑤ 雨で試合がジュンエンになる

② 寺のエンギを描いた絵巻物

④ 創業からのエンカクを記す

18

D ジョウダン

- ① アルコールをジョウリュウする
- ③ ジョウチヨウな説明
- ⑤ 門扉をセジョウする

② 領土をカツジョウする

④ ジョウイカタツの組織

19

問二 空欄

ア

イ

ウ

エ

オ

からそれぞれ一つずつ選べ。

に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中

ア

- ① しかし
④ つまり

- ② すなわち
⑤ したがって

- ③ しかも

20

イ

- ① あるいは
④ それで

- ② ただ
⑤ それにもかかわらず

- ③ なぜなら

21

ウ

- ① したがって
④ たとえば

- ② このように
⑤ または

- ③ それでも

22

エ

- ① なぜなら
④ しかも

- ② そのうえ
⑤ さて

- ③ それなのに

23

オ

- ① だからこそ
④ では

- ② ところが
⑤ つまり

- ③ それにより

24

問三 傍線部（a）「弾道」の本文における意味に最も近いものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

25

- ① 心に衝撃を与える道筋
- ② 終着点までの道筋
- ③ 引き返せない道筋
- ④ 展開スピードが早い道筋
- ⑤ 寄り道しない道筋

問四 空欄 甲・乙 に入れることばの組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

26

- | | |
|-----------|---------|
| 甲 | 乙 |
| ① 能動的・反射的 | 受動的・意識的 |
| ② 受動的・反射的 | 能動的・意識的 |
| ③ 受動的・意識的 | 能動的・反射的 |
| ④ 能動的・意識的 | 受動的・反射的 |
| ⑤ 能動的・受動的 | 意識的・反射的 |

問五 傍線部（一）「非常事態」について、本文で扱われた例のうち、ストーリー上の「非常事態」にあてはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

27

- ①探偵小説での、誰が実行したかわからない犯罪の発生
- ②『竹取物語』での、かぐや姫が地上から月へ帰ってしまった状態
- ③『雪国』での、妻子ある翻訳家の島村と若い芸者の駒子との恋愛
- ④『変身』での、グレーゴルが突然、巨大な虫となった状態

問六 傍線部（二）「決着などつけようがない」という判断それ自体が、「このあとどう決着をつけるのだろう」という感情によって引つ張り出されてくる、というべきでしょう」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

28

- ①ストーリーをあれこれ予測しようとすればするほど、何とかストーリーの決着をつけてほしいという感情が生じるということ。
- ②「どう決着をつけるのだろう」という感情があると、「決着などつけようがない」という冷めた判断が下されがちだということ。
- ③「決着などつけようがない」ように見える事態だからこそ、「どう決着をつけるのだろう」という感情がわきあがるということ。
- ④ストーリーを予測しようとしてしまう感情がなければ、そもそもストーリーの決着がつくかどうかなど判断しないはずだということ。

問七 傍線部(三)「人間は、事態が「決着をつける」までの展開それ自体を、たんに情報として知りたいだけでなく、どうやら体験したいという気持を持っているようです」とあるが、なぜそのように言えるのか。理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

- ① 決着までの展開の情報を知れば十分であるのなら、すでに決着を知っている映画や試合映像を何度も見て楽しめることの説明がつかないから。
- ② 一度見た映画や試合でも、決着までの展開の情報を正確に思い出すには「決着をつける」までの展開を再度体験することが欠かせないから。
- ③ 決着までの展開の情報を知っていても、その決着が不本意なものであれば、何度でも展開を体験し、確認せずにはいられないものだから。
- ④ 決着までの展開の情報は、展開それ自体の体験と強く結びついているため、体験することなしには展開の情報を知らることができないから。

問八 傍線部(四)「小説が物語(ストーリーを文字にしたもの)のウラをかく」とは、カフカの『変身』の場合、どういうことか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

- ① 『変身』は、グレーゴルの視点でストーリーが始まるため、読者はグレーゴルにとつての決着を予測しながら読むが、結局死んでしまい、誰にとつても最後まで「まともな決着」がつかないまま、読者が「ほったらかし」になるということ。
- ② 『変身』の読者は、主人公のグレーゴルは虫になってもまさか死ぬわけではないと予測しながら読むが、カフカはそのウラをかいいて最後にグレーゴルを死亡させ、家族が稼ぎ頭を失ってしまうという悲劇的なストーリーにしたということ。
- ③ 『変身』は、実は家族視点のストーリーとしては典型的な決着なのだが、グレーゴルの視点で始めることによって読者に「虫になったグレーゴルにとつての決着」を予測させ、最後に家族視点のストーリーだと明かす仕掛けだということ。
- ④ 『変身』は、実は家族視点のストーリーで、稼ぎ頭の変身と死亡という非常事態のあと、読者は当然家族が悲しむと予測するが、そのウラをかいいて故意に明るい日常を描くことによって、悲しみをより深く表現しているということ。

問九 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

31

- ① 川端康成の『雪国』は、連作短篇の形で少しずつ発表された経緯があるため、川端の作品の中では珍しく、ストーリーの決着がつかない作品である。
- ② 「(平衡状態↓)非常事態↓あらたな平衡状態」というストーリーの型は、ドラマや映画とは異なり、小説のみにあてはまる特徴的なパターンである。
- ③ カフカの作品『変身』では、グレーゴル一家の日常という平衡状態が語られたあとで、目覚めたら虫になっていたという非常事態突入が語られている。
- ④ ストーリーで非常事態が起こったとき、「このあとどう決着をつけるのだろう」と考えるのは、ストーリーを理解しようとする意図的な心の働きである。
- ⑤ 物語とは、たんなる情報であるストーリーを表現・提示し、それを読む・聴く人に体験させるものであるが、その体験が必ず面白いとは限らない。